

参加型音楽イベント「おんがくきっず」の試み

古山典子（初等教育学科）

Attempt of a Participatory Music Event “Ongaku-Kids”

Noriko KOYAMA(Department of Elementary Education)

抄録

本稿は、就実大学教育学部初等教育学科古山ゼミナールの3年生10名による、参加型音楽イベント「おんがくきっず」の実践報告である。本実践は、概ね4歳から小学校低学年までの子どもを対象とし、音・音楽とのかかわりを通してさまざまな音楽能力の伸長を目的とするものである。特徴としては、異年齢の子どもたちが同一の音楽活動に取り組むこと、音質を吟味した楽器を用いること、文化の継承の視点を含めること、が挙げられる。プログラムは、「オペレッタ『こびとのくつや』」、「(幕間) 楽器あてクイズ」、「わらべうたであそぼう」、「音楽に合わせて動こう」、「リズムであそぼう (合奏)」である。実施後の保護者を対象としたアンケート調査の回答からは、このような音楽活動を通して、子どもに音楽的な能力（楽器の知識、リズム感など）や他者との協調性、そして集中力を育みたいという思いがあることが明らかとなった。ワークショップリーダーとして参加した学生にとっては、音楽を介して実際に子どもたちとかかわることを通して、音楽活動における子どもの発達の様相や幼稚園や保育所で行われている音楽指導の内容、子ども向けイベントの企画・準備の仕方、自らの表現力等について学ぶことのできる有意義な機会となった。

キーワード：音楽活動、子ども、音楽能力、合奏指導、地域貢献